



# 郡部幼稚園保育者の描く子ども像に関する研究： 統合保育実施園保育者に対するアンケート調査結果 を通して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学僻地教育研究施設 公開日: 2010-04-11 キーワード: 作成者: 金澤, 克美, 高久, 宏一, 後藤, 守 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00009744">https://doi.org/10.32150/00009744</a>

# 郡部幼稚園保育者の描く子ども像に関する研究

— 統合保育実施園保育者に対するアンケート調査結果を通して —

金澤 克美

(北海道教育大学岩見沢校)

高久 宏一

(北海道教育大学附属教育実践研究指導センター)

後藤 守

(北海道教育大学札幌校)

## The Images of Children Held by the Kindergartners in Rural Area

Katsumi KANAZAWA, Hirokazu TAKAKU and Mamoru GOTOH

### I 問題の所在

本論文は、前報「障害児保育実施へき地保育所の保育者の描く子ども像」(金澤・後藤・後藤, 1998)に続くものである。前報では、今日、教育の原点として語られ、その教育的営みが推進されてきている「へき地教育」「障害児教育」「幼児教育」の3つの位相に焦点をあて、今後の教育保育環境のあり方に関する知見を提起することを研究目的として展開してきた。統合保育を実施している北海道のへき地保育所の保育者を調査対象とした自由連想的手法を採用して実施したアンケート調査結果からは、これらの保育者の描く子ども像が以下の5つの上位カテゴリーによって特徴付けられることが明らかにされている。

カテゴリーA：目で見ることのできる子どもの特性

カテゴリーB：子どもは顔でアピール

カテゴリーC：子どものパーソナリティ特性の二面性

カテゴリーD：大人との関係

カテゴリーE：子どもは楽しい遊びが大好き

全般的に、へき地保育所保育者によって想起された語彙には「はじける」「リンゴのほっぺ」「表情がはっきりする」「すべすべな肌」「くるくる」と言う語彙に代表されるように、具体性、具象性の高さが認められる傾向にあった。そして、今後のへき地保育所の趨勢を表す視点として、カテゴリーBの「子どもは顔でアピール」と言う子どもの能動性を強調したテーマから派生している「子どもが大人に与えるもの」「大人の心に生起する感情」や、カテゴリーE「子どもは楽しい遊びが大好き」に代表される子どもから保育者へ向けて示されるテーマに関する子ども像の深まりを提起してきた。

ところで、岡田(1993)は人と人の「かかわり」を教

育の本質的条件をなすものとして考え、かかわりの教育「作用」を権力的、権威的、認知葛藤的、受容・呼応的かかわりの4型から解明することにより教育の世界において常識的通念となっている「愛と権威によるかかわり」に代表される教育者の「役割」を再考しようと試みている。岡田(1996)は自己の提唱する「かかわりの教育学」の特徴について「総合的アプローチ」「実際の」「コミュニケーション論的」と言う3つのキー概念を列挙して解説を加えている。特に、かかわりを教育の中心的課題として捉える論点からは、3点目のキーワードに象徴されるコミュニケーションに関する知見が大きな意味を担っていると考えられるが、岡田の場合、情報発信者(教師側)の発進行為の意図と形態を解釈し応答する受信者側(子ども側)のコミュニケーション能力と対応させて個々のかかわりの特徴を解明することの重要性を力説している。彼が指摘しているように教育を「人間の成長発展を促す他者からの意図的な働きかけ」とする一般的定義では情報発信者としての教師の役割が強調されるが、コミュニケーションは発信者、受信者の入れ代わりが絶えず生起する双方向的、相互作用のなかかわりであり、「受容的・呼応的かかわり」をかかわりの「教育」作用の1類型として分類している岡田の論点からすれば、行動観察レベルで識別可能となる子どもを情報発信者とするかかわりのパターンも検討対象となってくると考えられる。特に、本研究の調査対象としているコミュニケーション能力の育成そのものが発達の課題として取り上げられる乳幼児や障害をもつ子どもとのかかわりを検討する場合、この観点が強調されてこよう。

本研究構築の前提として、著者は保育者自身が日々、保育の場で子どもとのかかわりを通して、彼らひとりひとりがそれまで培ってきた「子ども」の内包的意味がそ

の子ども像に示されるものとして捉え、「子ども」と言うことばを聞いてそれぞれの保育者が想起する子ども像を研究対象としてきている。このことに関連して、米本(1997)は、子ども観の歴史的変遷について論考する中で子ども観をその時代における大人側からの一方的見方とする捉え方が一般的であることを指摘した上で、「子どもとの相互作用の中で人が自らの子ども観を問い直し、子ども観を作り上げていくこと」の重要性を打ち出してきている。教育実習生の「子ども観」を扱った吉田・佐藤(1991)の教育心理学分野の研究では、実習期間を通してこの「子ども観」が変化することが確かめられている。前報の障害児保育を実施しているへき地保育所の保育者が描く子ども像からも、「子どもが大人に与えるもの」「大人の心に生起する感情」と言った保育者の既存の子ども像に対する反芻を促すであろうテーマが認識されており、このテーマにかかわる内包的意味の発展が今後のへき地保育所の趨勢を表していると考えられるであろうことは上述した通りである。

本研究では、「へき地教育」「障害児教育」「幼児教育」と言う教育の原点を構成し合う3つの位相を前報と同様に取り上げ、北海道郡部幼稚園において障害児保育を担当している保育者を研究対象としたアンケート調査結果を前報のへき地保育所保育者の描く子ども像と比較分析することにより、郡部幼稚園保育者の描く子ども像の様相を明らかにし、子どもの発達を支える教育保育環境のあり方に関する考察をさらに深めていくものとする。調査は、北海道における就学前の教育、保育が抱える今日的課題を明らかにする目的で実施され、全道の認可保育所及びへき地保育所、そして認可幼稚園の全ての保育者を対象とした郵送によるアンケート調査において調査項目として設定され、実施されたものである。なお、北海道における障害児保育の動向について、著者らはこれまで25年間に渡って調査研究を進めてきており、障害をもつ子どもの保育を担当している保育者が統合保育の効果を障害をもっている子どもに対しても、健常な子どもに対しても肯定的に認識していることを明らかにしてきている(後藤・小笠原・小笠原・金澤, 1991; 小笠原・金澤・後藤; 1993, 後藤, 1995)。

## II 研究方法

### 1 調査対象及び調査期日

本研究では、道内の認可幼稚園158施設の保育者から回答の得られた支庁管内の町村に設置されている幼稚園から組織される郡部幼稚園89施設379名の保育者のうち、研究目的に照らして実際に園において障害をもつ幼児を担当している保育者72名を分析対象群として抽出している。郵送によるアンケート調査は、平成10年11月に実施されている。

### 2 「子ども」の内包的意味に関する調査項目の構成

深谷ら(1972)のSD法(semantic differential technique)の手法を用いた幼児のイメージ尺度作成に関する研究で用いられた調査項目を参考にして作成された前報の調査項目を今回の調査において採用している(巻末資料1参照)。なお、前回調査と同じくこの調査項目は「発散的思考(divergent thinking)」が求められることから全調査項目の一番最後の項目として設定されている。

### 3 分析方法

前報と同様の分析方法を用いて、得られた調査データは回答欄に記入されたことばを1つずつ独立した素資料として整理し基礎資料を作成する。そして、前報の研究データから川喜田考案によるKJ法(川喜田・牧島, 1970)を用いて著者によって作成された、へき地保育所保育者29名が構成する「子ども」の内包的意味に関する概念図を用いて、郡部幼稚園保育者の描く子ども像の様相を明らかにしていくこととする。

## III 結果と考察

### 1 調査対象者のプロフィール

表1は回答者である道内の郡部幼稚園において障害をもつ幼児の保育を担当している保育者の保育経験年数別の内訳を示したものである。4名の未記入者を除いた69名の保育経験年数は、短い保育者では新採用と推測される半年から最長では25年の範囲にその分布が認められる。平均の保育経験年数は7.6年であり、文部省の平成7年度学校教員統計調査報告資料によると全国の幼稚園教員の平均勤務年数は9.8年であり、郡部幼稚園におい

表1 郡部幼稚園において障害をもつ幼児の保育を担当している保育者の保育経験年数

( )内は%

	2年以下	3～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20年以上	未記入	合計
人数	10 (13.9)	23 (31.9)	14 (19.4)	11 (15.3)	4 (5.6)	7 (9.7)	3 (4.2)	72 (100.0)

て障害児保育に携わっている保育者の経験年数は全国比較において短い傾向となっている。この学校教員統計調査によると幼稚園教員の平均勤務年数は9.8年と示されているものの、国立14.7年、公立16.6年、そして、私立7.8年と設置主体の相違によって大きな格差が認められている。本研究の調査対象となっている郡部幼稚園保育者の平均保育経験年数7.6年は全国の私立幼稚園教員の平均7.8年に酷似した数値となっているが、北海道の郡部幼稚園158施設の設置主体の内訳は公立73施設46.2%に対して私立85施設53.8%と若干、私立園の方が多量のもの、札幌市幼稚園150施設の公立17園11.3%、私立133園88.7%と比較して、道内の郡部では公立幼稚園の占める割合が高いことがわかる。したがって、公立園の比率が高い割りに障害児保育を担当している保育者の経験年数は短いことが特徴的であると言えよう。表1の保育経験年数の内訳を概観しても、5年未満の比較的年数の浅い保育者の割合が全体の4割以上を示しており、15年以上の経験年数をもつ保育者も1割以上存在しているが、北海道郡部幼稚園における障害児保育が経験年数の短い保育者によって担われていることが再確認できよう。なお、回答者の性別は未記入者1名、男性保育者4名、女性保育者67名と圧倒的に女性保育者数が多くなっている。

## 2 郡部幼稚園保育者の描く子ども像の特徴

### (1) 郡部幼稚園保育者の描く子ども像に共通する特徴

本研究で分析対象者となっている郡部幼稚園の保育者72名のうち、「子ども」の内包的意味を扱った調査項目に対して未記入者6名を除いた66名から回答が得られている。それぞれの回答者が挙げた語彙数は1語から25語の範囲に分布しており、総数416語が分析対象となっている。へき地保育所保育者の分布範囲1語から20語と比較して、その分布範囲には極端な差異は示されていないと言えよう。なお、へき地保育所保育者については総数241語が分析対象とされている。類似度が高いと解釈される語彙の整理を実施し、集計した結果、異なる195語の語彙が内包的意味を表すアイテムとしてあげられていることがわかる（巻末資料2参照）。へき地保育所保育者からあげられた語彙139語と比べるとその語彙の増加が認められる。

次に、郡部幼稚園保育者によって記述された語彙のうち、記述者数の多かった語彙について検討してみよう。前報においては、この回答者間に共通して記述されたものとして、「かわいい」「元気」「素直」「小さい」、そして、「泣く」を順番に列挙することができたが、札幌市との比較において「素直」、あるいは「正直」「純真」と言った語彙に象徴化される子どもの純粹無垢なイメージを類推させる語彙がへき地保育所保育者によって多く想起さ

れていることが明らかにされている。郡部幼稚園の保育者間に共通して一番多く想起された語彙として、「かわいい」をあげることができるが、39名と言う半数以上の回答者によってその記述がなされていることがわかる。以下、「元気」30名、「小さい」21名、「素直」18名、続いて「面白い」「無邪気」が共に12名となって並んでいる。したがって、へき地保育所保育者の調査結果とほぼ同様の傾向がそこには認められると言えよう。このうち、「素直」と意味的類似性が高いと認識され得る「純粹」「正直」「純真」と言った語彙を加算すると、前述の純粹無垢な子ども像に関連した語彙は総計27名、全体の約4割の保育者によって記述されている結果となり、この特徴的傾向は保育者の背景的要因である地域的特性に裏打ちされたものとして理解可能である。一般的にへき地に住む子どもの特徴として「純真」「素朴」「正直」と言ったパーソナリティ特性が語られる傾向が強いが、1988年に国立教育研究所が実施したへき地校の子どもに関する研究においてもこれに同意する調査結果が示されている。米本（1997）は、これまで我々が子どもに対して純粹無垢と言う大人にとって一種の憧憬的イメージを持って子どもを捉え、そうしたイメージに子どもを囲い込んでしまう危険性を意識せずにそのイメージにそった子ども作りがなされてきているのではないかとする危惧を抱いている。仮に、郡部保育者の構成する子ども像がこれらの環境とのかかわりの中で表出され摩擦係数が皆無に等しい、環境側が受容的に感受でき得る子どもの特性のみによって象徴化されるならば、郡部に居住する子ども達の教育保育環境に対する懸念が噴出されよう。しかしながら、前報において検討したようにへき地保育所の保育者達が描き出す子ども像には「明るい」「元気」な位相も示されており、郡部幼稚園保育者の子ども像に関しても詳細な考察が肝要である。

### (2) 郡部幼稚園保育者達の描く総体的子ども像の特徴

前報では、それぞれの回答者毎に表出された子ども観を総体化することにより障害児保育を実施しているへき地保育所の保育者の描き出す子ども像を捉える意図からKJ法を用いており、5つの上位カテゴリーから形成されているその内包的意味世界に関する概念図を作成してきた（図1参照）。本研究においても同様の研究意図からこの概念図に即して、上位カテゴリーの構造及び内容、そして各上位カテゴリーに含まれる語彙数の全総数に占める比率に関する比較分析を通して郡部幼稚園保育者の組織する子ども像に関する詳細な検討を加えていくこととする。なお、各上位カテゴリーに含まれる語彙数の全総数に占める比率は同一の語彙に対する回答者数を加算して算出されたものである。

図1はへき地保育所の保育者が構成する「子ども」の内包的意味に関する概念図を基本マップとして、可能な限りこの基本マップを踏襲して構成された郡部幼稚園保育者の想起した語彙を組み込んで作成した概念図である。なお、各島の近くに付与されたカテゴリー名は著者が考えたものである。また、各島の数値はその島に含まれる語彙数の総数を表わしており、2つ列記されている数値のうち左側の下線付きの数値が郡部幼稚園保育者を、そして、右側の数値がへき地保育所保育者を対象としたものである。上位カテゴリーの横にある数値も同様の原理で添付し、( )内に全総数に占める割合を記入してある。

この図1を概観すると、ほぼ前報の概念図と同様の構造を確認できるが、カテゴリーC「子どものパーソナリティ特性の二面性」にかかわる下位カテゴリーの構造と、このカテゴリーCとカテゴリーD「大人との関係」から派生している新たに加えられた「大人にとっての子どもとの存在とは?」と言うカテゴリーに基本マップとの相違を見てとることができよう。この両者間に認められる差異は、語彙総数に占めるカテゴリーCの比率にも出現しており、へき地保育所保育者が24.1%に留まっているの

に対して郡部幼稚園保育者は34.4%と大きなひらきを認めることができる。

以下、両者の上位カテゴリーの比率についてさらに考察を進めてみよう。郡部幼稚園の場合、上述のカテゴリーに加えてカテゴリーE「子どもは楽しい遊びが大好き」の数値が高くなっている(郡部幼稚園保育者19.0%、へき地保育所保育者12.0%)。これに対して、カテゴリーA「目で見ることのできる子どもの特性」(郡部幼稚園保育者10.1%、へき地保育所保育者14.9%)やカテゴリーB「子どもは顔でアピール」(郡部幼稚園保育者15.4%、へき地保育所保育者20.3%)、そしてカテゴリーD「大人との関係」(郡部幼稚園保育者7.5%、へき地保育所保育者12.9%)はいずれも郡部幼稚園保育者の方が低くなっている。へき地保育所保育者の傾向としては、カテゴリーCに続いてカテゴリーA及びカテゴリーBの全体に占める割合が高くなっているが、カテゴリーAは「ぼちゃぼちゃした顔にりんごのほっぺと丸いひとみ、そして、すべすべのお肌」「感情表現ははっきり」「小さい身体に大きな声」の4つの下位カテゴリーからさらに構成されており、これらの表題が示しているようにいずれも直接観察可能な子どもの特性に

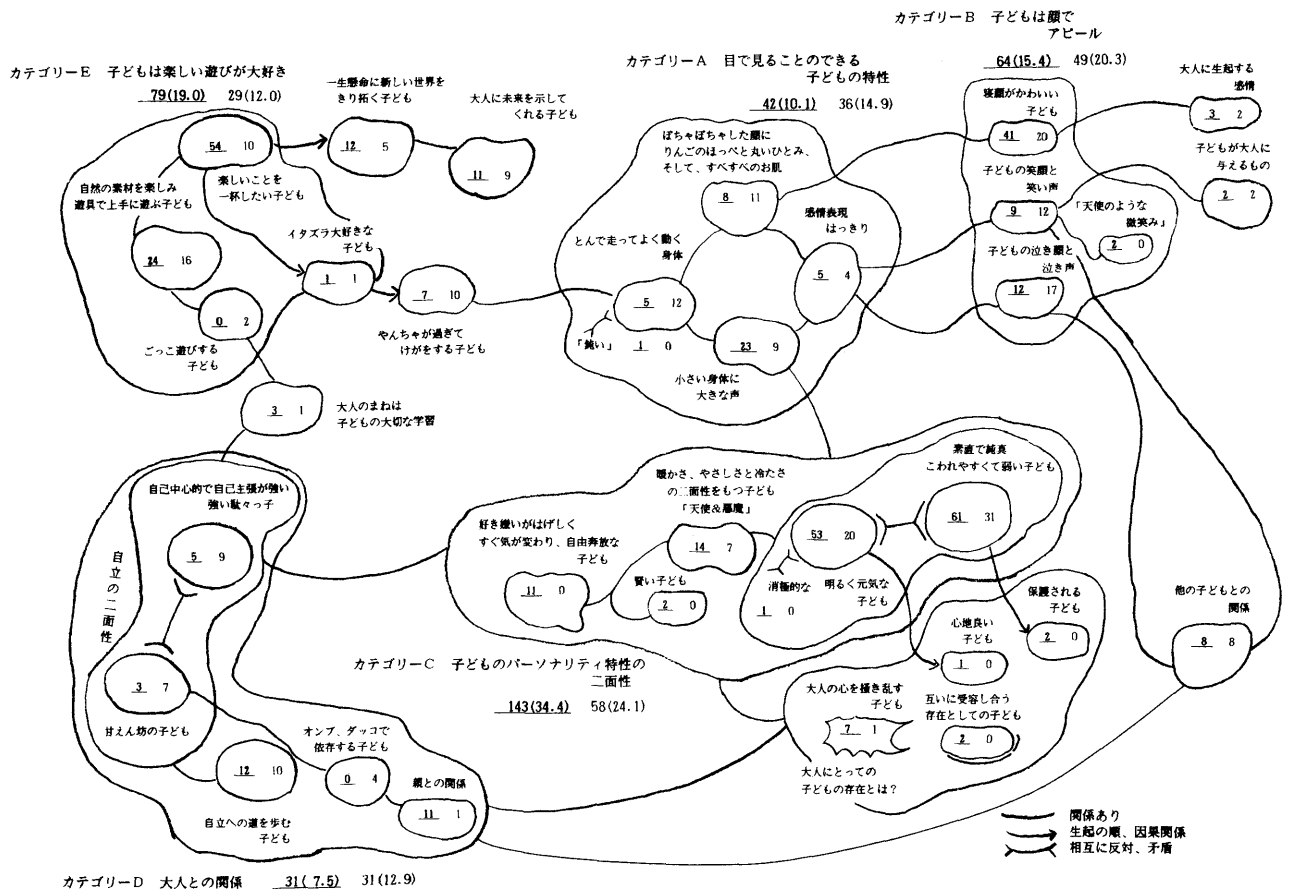


図1 保育者が構成する「子ども」の内包的意味に関する概念図

言及したものである。また、カテゴリーBも「寝顔がかわいい子ども」「子どもの笑顔と笑い声」、そして、「子どもの泣き顔と泣き声」と言う3つの下位カテゴリーによって理解可能であるように、実際に保育者が自己の目で見て耳で聞くことのでき得る子どもの状態像を想起したのから編み出されている。したがって、へき地保育所保育者はカテゴリーCの子どものパーソナリティの二面性を加味した上で、さらに観察可能な子どもの感情表現に根差した状態像を強調する子ども像を構成していると言えよう。

このへき地保育所保育者の特徴的傾向に比して、郡部幼稚園保育者はカテゴリーCに加えてカテゴリーEの比率が高くなっており、カテゴリーCから新たに派生した「大人にとっての子どもとの存在とは？」やカテゴリーEが「大人に未来を示してくれる子ども」に連鎖していくカテゴリー群であることを考慮すると、そこには子どもとのかかわりを通して保育者がその子ども像を作り上げていく、あるいは再編成していくことにかかわるテーマに関しての比重がより高まっている傾向を確認することができよう。

次に、上位カテゴリーの構造と内容について検討を加

えていくこととする。ここでは、図1において両者間に顕著な構造上の違いが提示されているカテゴリーCに関する考察を中心に据えて進めていくことにしよう。カテゴリーCは子どもの持つパーソナリティの二面性に着目した語彙によって形成されているカテゴリーであり、5つの上位カテゴリーの中でその比率がへき地保育所、そして、郡部幼稚園の両方の保育者にとって一番高いカテゴリーとなっていることは既に述べた通りである。図2はそのカテゴリーCの内部構成を図解したものであるが、これを見るとこのカテゴリーが「素直で純真、こわれやすく弱い子ども」「明るく元気な子ども」「暖かさ、やさしさと冷たさの二面性をもつ子ども」-天使&悪魔-、及び「賢い子ども」「好き嫌いがはげしく、すぐ気が変わり、自由奔放な子ども」の5つの下位カテゴリーによって組織されていることが理解されよう。このうち、「素直で純真、こわれやすく弱い子ども」は保育者の地域性を特徴付けている「素直」「正直」「純真」と言った語彙を包含しており、それは色でイメージすると「白」であり、まさに「けがれのない」「どのようにも味がつけられる」「清純」無垢な子ども像であり、それゆえに「こわれそうな」「感じやすく、傷つきやすい心」をもって

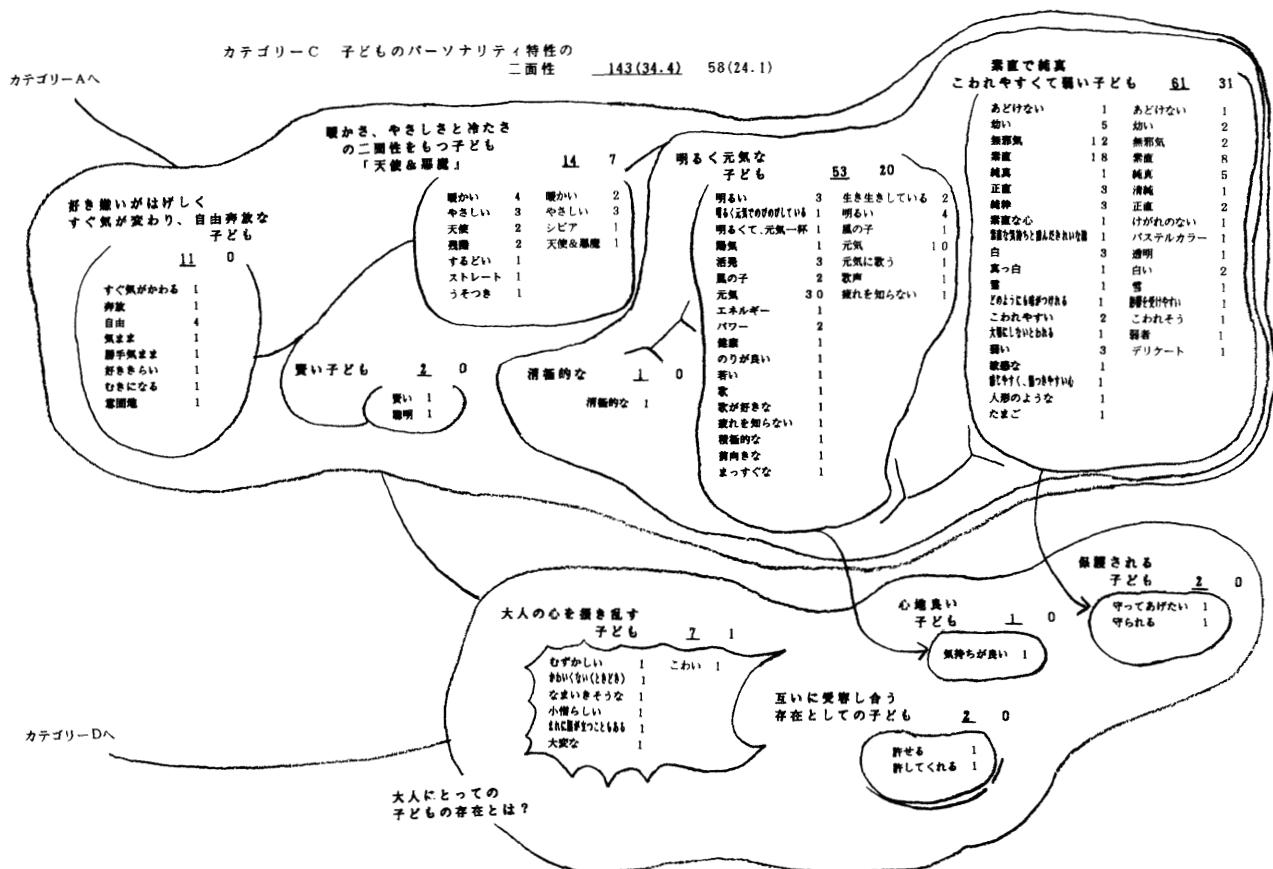


図2 カテゴリーC「子どものパーソナリティ特性の二面性」に関する概念図

保育者にイメージされていると言えるのではなかろうか。そして、その「こわれそうな」「弱い」子どもの姿が保育者に、新たに派生している「大人にとっての子どもの存在とは？」の「守ってあげたい」「守られる」と言う語彙を想起させているひとつのステレオタイプの子どもの像を描き出すことが可能である。しかし、カテゴリーCの表題「パーソナリティ特性の二面性」に如実に表されているようにこの「素直で純真、こわれやすく弱い子ども」のテーマに対して、「明るく元気な子ども」像が構成されており、さらには「暖かさ、やさしさと冷たさの二面性をもつ子ども—天使&悪魔—」のテーマが引き出されている。以上のようなパーソナリティ特性の二面性の表明に加えて、郡部幼稚園保育者においてはへき地保育所保育者には示されていない2つの下位カテゴリー「賢い子ども」「好き嫌いがはげしく、すぐ気が変わり、自由奔放な子ども」像がスケッチされている。この下位カテゴリー「好き嫌いがはげしく、すぐ気が変わり、自由奔放な子ども」は子どもの何ものにも束縛されない「自由」な特性に言及しているものであり、代表的な純粹無垢な子ども像のテーマと反目する要素を抱えたテーマとなっており、郡部幼稚園の保育者に子どものパーソナリティ構造をより多面的に複雑度を高めて捉えようとする心性を感じ取れよう。そして、郡部幼稚園保育者の概念図にはこのカテゴリーCとカテゴリーD「大人との関係」から生じ派生してきているカテゴリー「大人にとっての子どもの存在とは？」の存在が認められる。このカテゴリーにはさらに、既に触れた「保護される子ども」に加えて、「互いに受容し合う存在としての子ども」「心地良い子ども」、そして、「大人の心を掻き乱す子ども!!」の諸側面が想起されている。郡部幼稚園保育者の場合、子どもとのかかわりの中で互いに「許せる」「許してくれる」と言う双方向的な間主観の世界が保育者によって認識されていると言う点が特徴的なことにプラスして、「むずかしい」「手がかかる」「小憎らしい」「大変な」、「大人の心を掻き乱す子ども」と言う社会通念的にはネガティブな位相も示されている。

先に論じたように、岡田（1993）は教育的かかわりを図3に示す直交する2つの軸、すなわち「縦—横のかかわり」と「安定・調和的—対立・葛藤的關係」によって示される4つの類型によって検討することを試みている。上述した「大人の心を掻き乱す子ども!!」像をこの類型にあてはめてみると、横軸にのせられた安定・調和的關係と言うよりも対立・葛藤的關係を保育者に認識させている子ども像として捉え得るよう考えられる。現実的検討課題として、保育者が子どもに対して「かわいくない（時々）」「なまいきそうな」「小憎らしい」「むずかしい」と言うネガティブな思いを抱くことはあり得る

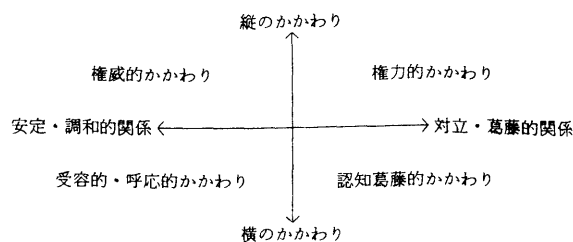


図3 教育的かかわりの4類型 (岡田, 1993)

ことであり、それは郡部幼稚園保育者の場合、子どもをより多面的に捉え子どもの複雑性を認識すればするほど保育者の内的世界に去来する思いとなっているように推察される。子どもが自立性を高めるほど周囲との衝突が起こり易くなることを考慮すると、幼稚園が対象とする満3歳以上の子どもはより自立性を加速化させていく時期にあたり、保育者自身が保持する子ども像の枠をはみだす子どもの姿を認識することもあろう。いずれにしても、この「大人にとっての子どもの存在とは？」のテーマに集約されるように、図2に示された郡部幼稚園保育者の子ども像にはステレオタイプの純粹無垢な子ども像に留まらない、保育者自身の子ども像の再検討、再構築を必然的に促すような子ども像、そして子どもと保育者との力動的なかかわりの様相が示されていたと言えよう。また、郡部幼稚園保育者にはカテゴリーE「子どもは楽しい遊びが大好き」の下位カテゴリー「楽しいことを一杯したい子ども」に示されている子どもの持つ「可能性」「好奇心」「面白さ」をより強く認めた上でこれらのネガティブな思いが表されていたことを明記しておきたい。

#### Ⅳ まとめと今後の課題

本研究では北海道内の郡部幼稚園保育者の描く子ども像について、へき地保育所保育者の描く子ども像に関するKJ法を用いて整理された概念図を用いて検討を加えてきた。その結果、へき地保育所保育者が想起していた純粹無垢なイメージをそこに認識し、さらには自由奔放なイメージをも認めることができた。そして、保育者が保育の場において自身の子どものための認識を反芻させるようなかかわりを子どもとの間に構築していることが暗々裡に示されていたと言えよう。

前報と同様、本研究でも結果の分析にあたってはKJ法を用いており、そこではまさに著者の持つ主観的世界を前面に打ち出して回答者である保育者の示している内包的意味世界の構造化を図ってきた。小学校での実習を体験している教育実習生を研究対象として彼らの「子ども観」を扱った吉田・佐藤（1991）は、因子分析による

統計的手法を用いて分析を行っており、その結果、6つの因子を見いだしている。その6つの因子とは、「自己中心性の因子」「創造性・積極性の因子」「公平さの要求の因子」「反抗的・現実的態度因子」「事実を見通す因子」「理解の困難さの因子」である。これらの因子に示されている子ども像は本研究の調査対象となっている保育者の回答結果にもある程度、見て取ることができるように思われる。今後は回答者から得られた素資料を用いて子ども像を分析するSD法による質問項目の作成にかかわる研究に関しても一考する余地があろう。

今日、子どもの発達の足場となっている教育現場においては、いじめ、不登校、と言った特定の子どもにかかわる課題から学級崩壊と言った学級集団の存続そのものにかかわる課題が提起されている。今の子どもは変わった、理解できない、わからない、と言う大人側のことを耳にすることがあるが、それはとりもなおさず大人自身が持っている子ども像に対する再検討が迫られていることを意味しており、いかに大人側が子どもと自己の子ども像の枠に囚われない力動的なかかわりを展開できるかにひとつの鍵があるのではなからうか。

## 謝 辞

お忙しい中、アンケート調査にご回答いただきました北海道内の幼稚園、保育所のみなさまに衷心よりお礼申し上げます。また、アンケート調査の実施、調査結果の基礎資料作成にあたって北海道教育大学札幌校特殊教育学科、教育専攻科、そして、岩見沢校教育学科の学生みなさんにご尽力をいただきました。どうもありがとうございます。

## 引用文献

- (1) 金澤克美・後藤恵美子・後藤 守：障害児保育実施へき地保育所の保育者の描く子ども像。北海道教育大学僻地教育研究, 1998, 第52号, 143-148.
- (2) 岡田敬司：かかわりの教育学 教育役割くずし試論。1993, ミネルヴァ書房.
- (3) 岡田敬司：相手の成長発展をどう左右するか。AERA MOOK 13 教育学がわかる, 62-66, 1996, 朝日新聞社.
- (4) 米本秀仁：子ども観の歴史の変遷。北星学園大学社会福祉学部北星論集, 1997, 第34号, 55-71.
- (5) 吉田道雄・佐藤静一：教育実習生の児童に対する認知の変化 実習前, 実習中, 実習後の「子ども観」の変化。日本教育工学雑誌, 1991, 第15号第2巻, 93-99.
- (6) 後藤 守・小笠原詠子・小笠原 仁・金澤克美：障

害児保育に関する地域的特性に関する研究 北海道郡部の保育所の事例を中心として。北海道教育大学僻地教育研究, 1991, 第45号, 15-26.

- (7) 小笠原詠子・金澤克美・後藤 守：障害児保育に関する地域的特性に関する研究(Ⅱ) 北海道郡部の幼稚園の事例を中心として。北海道教育大学僻地教育研究, 1993, 第47号, 43-49.
- (8) 後藤恵美子：障害をもつ子どもをとりまく保育環境に関する検討 保育所, 幼稚園の保育形態および方法に関する調査結果の分析を通して。北海道心理学研究, 1995, 第18号, 71-82.
- (9) 深谷和子・麻生明子・馬場道子：幼児のイメージ尺度作製の試み(その1)。東京教育大学教育研究施設紀要教育相談研究, 1972, 第12号, 23-48.
- (10) 川喜田二郎・牧島信一：問題解決学 KJ法ワークブック。1970, 講談社.
- (11) 文部省：平成7年度学校教員統計調査中間報告.
- (12) 国立教育研究所：へき地教育の特性に関する総合的研究 子どもの教育環境としてのへき地性, 小規模性の測定を中心に。国立教育研究所, 1988, 第116集.

金澤 克美(北海道教育大学助教授岩見沢校)

高久 宏一(北海道教育大学附属教育実践研究指導センター技官)

後藤 守(北海道教育大学教授札幌校)

資料1

あなたが「子ども」ということばを聞いた時に、思い浮かぶことば（形容詞・副詞・その他の修飾語）を下の空欄に記入して下さい。正しい答えがあるわけではありませんので、思いついたままで結構です。なるべくいろいろなことばをたくさん思い出して下さい。たとえば、「バナナ」ということばでは、次のようになります。

例：「バナナ」～黄色い、おいしそうな、やわらかい、グローブのような、好きな、…………

「子ども」

資料2 郡部幼稚園において障害をもつ幼児の保育を担当している保育者が「子ども」に関して想起したアイテムのリスト（頻数順）

	頻数	自由, 自由な	4	こわれやすい、こわれそうな	2
かわいい	39	やわらか, やわらかい	4	残酷	2
元気, 元気な, 元気がいい		明るい	3	成長, 成長する	2
元気が一杯	30	活発, 活発な	3	想像力, 想像力が豊か	2
小さい, 小さな	21	けんか, けんかをする	3	天使	2
素直, 素直な	18	好奇心, 好奇心旺盛		天使のような笑顔	
面白い	12	好奇心が強い	3	天使のようなほほえみ	2
無邪気, 無邪気な	12	純粹, 純粹な	3	にぎやか	2
遊び, 遊ぶ	11	正直	3	はしゃぐ	2
楽しい, 楽しそうな、楽しむ	8	白, 白い	3	パワー, パワーがある	2
泣く	8	大好きな	3	ほほえましい	2
可能性, 可能性のある		泣き虫, 泣き虫な	3	笑う	2
可能性を沢山もっている		やさしい	3	明るくて元気一杯	1
様々な可能性を持っている		弱い	3	明るく元気でのびのびとしている	1
無限の可能性	7	わがまま	3	汗	1
発想が豊か, 発想力		遊びの天才	2	あどけない	1
発想が富んでる	6	甘える	2	甘えん坊な	1
幼い	5	美しい	2	雨降り大好き	1
遊びが大好き, 遊ぶの大好き	4	おはなし	2	いいにおい	1
暖かい	4	輝く, 輝かしい	2	意固地	1
笑顔	4	風の子, 風の子のような	2	いたずら大好き	1

一生懸命	1	散歩が好きな	1	ニコニコ	1
一生懸命に自分の話をする	1	自己中心的な	1	鈍い	1
一緒にいると元気になれる	1	詩人	1	人形のような	1
いろいろ	1	自分でやろうとする	1	のりが良い	1
動く	1	純真	1	はじける	1
うそつき	1	消極的な	1	走り回る	1
歌	1	人権	1	発明家	1
歌が好きな	1	好き嫌い	1	はやしたて	1
うまく思いを伝えられない	1	スキンシップ	1	表情豊か	1
うれしい	1	すぐ気が変わる	1	敏感な	1
エネルギー	1	すごい	1	服	1
大きな声	1	ストレート	1	ぶくぶく	1
怒る	1	素直な気持ちと澄んだきれいな瞳	1	不思議	1
お母さん	1	素直な心	1	双葉	1
お母さんが一番好き	1	するどい	1	ふわふわ	1
落ち着く	1	製作が好きな	1	ポケット一杯の未来を持った	1
お父さん、お母さんが大好きな	1	製作が苦手な	1	ポチャポチャ(やわらかそう)	1
おどりが好きな	1	世界をもった	1	奔放	1
おっばいが好き	1	積極的な	1	前向きな	1
おひさまのにおい	1	先生や大人に見ていてほしい	1	真っ白	1
お弁当	1	創造的な	1	まっすぐな	1
おもち	1	聡明	1	守ってあげたい	1
親の鏡	1	外遊び	1	守られる	1
オリジナル	↓	大切な	1	まれに腹が立つこともある	1
怪獣君のような	1	大切にしないとわれる	1	未完成な人間	1
賢い	1	大変な	1	水	1
家族にとっての宝	1	駄々をこねる	1	未発達	1
勝手気まま	1	楽しい発想の	1	ミルクのかおり	1
かばん	1	たまご	1	むきになる	1
体で表現する	1	単純	1	難しい	1
可憐な	1	力一杯泣く	1	夢中	1
かわいくない(ときどき)	1	チョロQのような	1	やる気	1
かわいいしぐさ	1	疲れを知らない	1	雪	1
かわいらしく、ほほえましい	1	つぶらな瞳	1	雪が好き	1
感じやすく、傷つきやすい心	1	手がかかる	1	ユニーク	1
かん高い声	1	どのようにも味がつけれる	1	許してくれる	1
感動をくれる	1	友達	1	許せる	1
頑張る	1	友達とのかかわりを求める	1	良く動き回る	1
頑張る力を持っている	1	泥遊び	1	良く転ぶ	1
気まま	1	どろんこ	1	陽気	1
気持ちが良い	1	なかがみがい	1	ワーワー	1
牛乳	1	泣き声	1	若い	1
興味が沢山	1	なぐり描き	1	わかりにくい	1
繰り返して取り組み、接する	1	何を考えているのかわからない	1	笑い声	1
健康	1	なまいきそうな	1	笑うような	1
個人差	1	何にでも興味がある	1		
小憎らしい	1	何にでも夢中になれる	1		
				総計	195